

# りんご栽培情報第3号

## ■ 1 生育概況と当面の管理

本年の「ふじ」の満開は4月19日頃（前年差－6日、平年差－11日）でした。現時点での結実量は平年並みです。

今後は、結実状況や樹勢に応じた適正な着果量となるように、摘果作業を進めてください。特に着果量が多い樹、樹勢の弱い樹は早期に摘果を行い、着果負担を減らし、樹勢の維持、向上を図ってください。

また、梅雨前の点検として、暗きよの確認や額縁明きよの掘り直し等、排水対策を徹底するほか、排水不良園では、ほ場内の明きよを増設するなどして排水性の改善を図ってください。降雨が少なく土壌が乾燥する場合は、積極的にかん水を行ってください。

## ■ 2 今後の病虫害防除

降雨前散布を心がけるとともに、散布間隔が10日以上空かないように努めてください。

回数	時期	対象病虫害	散布薬剤名	希釈倍数	10a当 散布量	100㎡当 必要薬剤(g,cc)	防除実施日 (自己記入)
7	6月1～ 3日頃	黒星病、褐斑病、黒点病、炭そ病 アブラムシ類、キンモンホリガ、カミムシ類 果実の表皮障害防止 (展着剤)	アントラコール顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 クレフノン マイリノー	500倍 4,000倍 100倍 20,000倍	500㎡	200g 25g 1kg 5cc	月 日
8	6月11～ 13日頃	斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病 シンクイムシ類、キンモンホリガ、ハマキムシ類 (展着剤)	ストロビードライフロアブル サイアノックス水和剤 マイリノー	2,000倍 1,000倍 20,000倍	500㎡	50g 100g 5cc	月 日
9	6月21～ 23日頃 (防除前に草刈を実施)	斑点落葉病、輪紋病、褐斑病、炭そ病 リンゴハダニ、ナミハダニ (展着剤)	パスポート顆粒水和剤 ダニゲッターフロアブル マイリノー	1,000倍 2,000倍 20,000倍	500㎡	100g 50cc 5cc	月 日

- ・ 薬剤は、散布ムラが無いよう、ていねいに十分量を散布してください。
- ・ 園外や他作物への飛散が無いように、注意して散布してください。
- ・ 農薬の使用前には、必ずラベルを確認してください。

## ■ 3 新梢管理について

実施日 /

受光環境の改善や薬剤到達性の向上のため、6月から主幹および主枝基部から1m程度の間に発生している新梢を切除してください(写真1)。ただし、主枝骨格枝の背面の日焼け防止のため、20～30cm間隔に1本程度、新梢の向きを揃えて残してください。

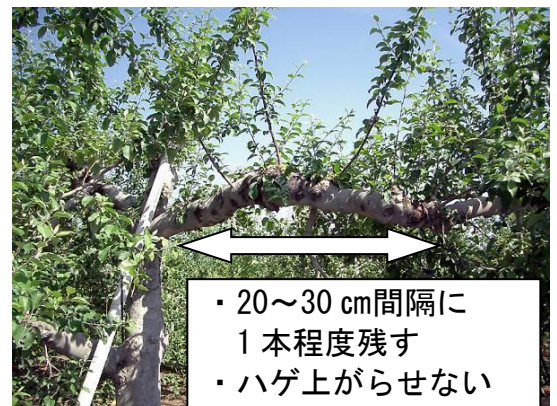


写真1 新梢管理後

## ■ 4 赤衣病対策について

確認・実施日 /

赤衣病による被害枝が散見されます。病斑は薄いピンク色のカビに覆われて、枝の裏側などを中心に見られます(写真2)。摘果などの作業中に病斑がないか確認してください。

降雨の続く梅雨時期以降は、病斑が拡大する恐れがありますので、病斑部の切除、削り取りを行い、バッチレート（3回以内）を塗布するとともに、ポリオキシシンAL水和剤1,000倍（3日前まで、3回以内）を散布してください。



写真2 主枝に発生した赤衣病

## ■ 5 仕上げ摘果について

実施日 / ~ /

仕上げ摘果は、満開60日後の6月末までに終了するようにしてください。

### (1) 摘果程度

着果数は、「ふじ」の場合、4～5頂芽、葉数では50～60枚程度に1果の割合とする。また、「樹勢が弱い樹」や「下がり枝」は少なく、「樹勢が強い樹」や「上がり枝」は多くする。

### (2) 仕上げ摘果で落とす果実

- ・正常果（写真3）を残し、変形果・奇形果（写真4）を摘果する。
- ・青実果になりやすい以下の果そうは摘果する。
  - ① 果台が2cm以上の果そう（写真5）。
  - ② 果台枝が20cm以上の果そう（写真5）。
  - ③ 20cm以上の長果枝先端の果そう。
- ・直射日光が当たり、果面が赤くなっている果実は、日焼け果になりやすいため、摘果する。なお、着果数が不足する場合は残す。

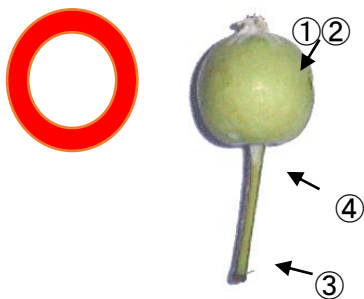


写真3 正常果

- ①大きい
- ②形が左右対称
- ③軸が太くて長い
- ④軸と果実の付け根にくぼみがある

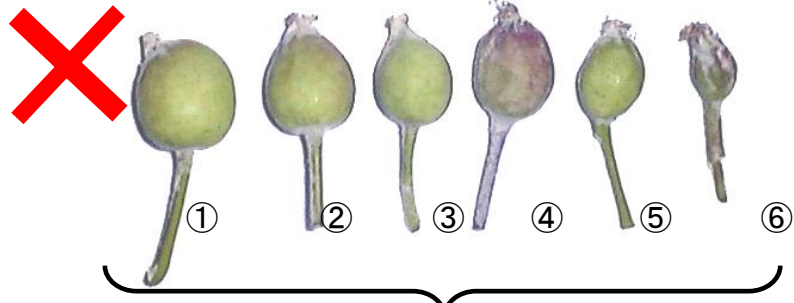


写真4 変形果・奇形果

- ①果梗から果頂部にかけて曲がっている、
  - ②果梗が短い、③果形が悪い、④果実に筋がある、
  - ⑤小さい、⑥細い等。
- ※霜や雹により、かさぶた状の傷（サビ果）や、くぼみがある果実も摘果する。



写真5 果台と果台枝の例